

○熊本 卓哉<sup>1</sup>

<sup>1</sup>武蔵野大薬

本セッションでは、日本薬学会の FIP における活動状況、および演者の主宰する SIG Drug Design and Discovery について紹介する。日本薬学会は FIP の団体会員、特に薬科学を志向する PSMO として加盟している。昨年オーストラリアで開催された Pharmaceutical Sciences World Congress では、入村達郎教授（聖路加国際大学）が Programme Co-chairs として参画し、次回の 2017 年のストックホルム大会に向け、鈴木洋史教授（東大病院）が Program Committee に加わった。一方、毎年開かれる World Congress には、Council meeting や BPS meeting への参加の他、前回のタイ年会においては、日本薬学会の代表として入村教授（前出）が「Public-private partnership in pharmaceutical affairs in Japan」の演題で、日本における創薬に向けた産官学の協力体制について講演した。

一方、演者の主宰する SIG Drug Design and Discovery は、主に創薬化学に関する演題を年会で紹介しており、一昨年ダブリン年会において当 SIG 副委員長の U. Holzgrabe 教授（ドイツ）が polypharmacology にかかわる創薬化学について、また昨年タイ年会において、熊本が創薬における半合成の重要性についての講演を行った。また、最近動き出した薬学業務の環境問題に関する BPP-BPS 合同作業部会（Working Group on Pharmaceuticals and the Environment）において、薬の製造過程における環境への負担の低減を目指す Green Chemistry の重要性を訴えている。